

わたしの作品



【書道】鳥取商工会議所会頭賞 遠くへ行きたい



【湖山町北】
おんだあきえ
音田晃江さん

静かな空間、墨の匂いに包まれると落ち着きますね。今回は、題材として見た人が思わず口ずさめるような詩を選び、淡墨の青いにじみを活かしながら、ほつぽつといさり火のような雰囲気ができるように工夫しました。これからも、見た人がほわっと安心できるようなものが作れたらいいなあ、と思います。



Elle est restée —待つ—

【写真】市展賞



ながたにみか
長谷実果さん

物語を想像しながら、好きな写真を並べてみました。今回は、女性らしいものを作りたいかったです。ちょうどこの頃、フランス映画をよく見ていて、色合いなんかはその影響も少しだけあるかも知れませんが。写真は、その時々自分の気持ちや感じたものが表現できるから好きです。

市民図書館の
司書が調べます

まちで見つけた「なんでだろう？」

鳥取市内を流れる袋川に、

「旧袋川」と「新袋川」があるの、
なんでだろう？



国土交通省鳥取河川国道事務所にお尋ねしたところ、行政的には「新袋川」という名前の河川はなく、「袋川」と「旧袋川」が存在します、というお答えでした。地図で確認してみると、確かに、私たちが「新袋川」と呼んでいる川は「袋川」と表記されています。しかし、「角川日本地名大辞典」(角川書店、昭和五十七年)で「袋川」の項目を引くと、「旧袋川」と「新袋川」の名称が使い分けられています。一体、誰が、いつ、「新袋川」という呼称を使い始めたのでしょうか？

『千代川史』(建設省鳥取工事事務所・編、昭和五十三年)や『袋川』(田中貢・著、昭和五十一年)など、さまざま文献に当たってみました、それに関する記述は見られませんでした。

『とっとり市報』五月十五日号の「とっとりなんでも評判記」でも紹介されているように、現在「旧袋川」と呼ばれている川は江戸時代前期に城下町を作るため掘られたものです。(もちろん当時はただの「袋川」。)その後、大正十五年十一月より開始された千代川改修工事にもない、大杓から古市に向けて新たな流路が開削されました。袋川を流れる水量を調節して、市街地を洪水の被害から守るためでした。これが、いわゆる「新袋川」です。この新たな流路は、扇ノ山に源を発する袋川につながって本流となり、市内を流れるかつての袋川下流部



袋川と旧袋川を分ける水門 (大杓)

が「旧袋川」と呼ばれるようになったのです。では、この「新袋川」が完成したのはいつのことでしょうか？『千代川史』の年表には、昭和九年九月としか記載されていません。実は同年九月二十一日、鳥取市は室戸台風と呼ばれる大型の台風に襲われます。このとき、急遽、「新袋川」に通水したおかげで、市街地の被害は比較的少なくてすんだのだそうです。つまりこの日が、「新袋川」に初めて水が流れ、「旧袋川」が誕生した日というわけです。ドラマチックなエピソードですね。

※このコーナーでは、みなさんからの「なんでだろう？」を募集しています。秘書広報課 ☎20-3159へ。